

令和7年度
熊本県高校魅力化コンソーシアム状況報告

御船高校わくわくコンソーシ アム (御船町/御船高校)

1. 高校魅力化コンソーシアムの紹介

コンソーシアムの名称：御船高校わくわくコンソーシアム
構成する市町村／学校：御船町/御船高校

①学校の概要

住所：熊本県上益城郡御船町木倉1253
電話番号：096-282-0056

学科・コース：普通科、普通科芸術コース、
電子機械科

学級数・生徒数：17クラス、513名（令和7
年4月1日時点）

本校は、普通科、普通科芸術コース、電子
機械科を有する多様な学びができる学校で
ある。

普通科は、多彩な活動や学びを実現し、芸
術コースは、個性を伸ばし豊かで多彩な感
性を育み、電子機械科は多岐にわたる幅広
い分野を学ぶことができる。課題は教職員
不足による負担感と探究学習の活性化、グ
ローバル教育の推進である。

②市町村の概要

住所：熊本県上益城郡御船町御船995-1
電話番号：096-282-1111

御船町は熊本県中央部の上益城郡に位置す
る町で、肉食恐竜化石の発見地として知ら
れる。豊かな自然環境と歴史文化資源を有
し、地域資源を活かした観光振興や地域活
性化に取り組んでいる。

人口：17,302人（令和8年2月1日時点）

平坦部の人口は増加傾向にあるが、中山間
地域は少子高齢化が進み、人口が減少して
いるため、当該地域の地域コミュニティの
維持が課題となっている。

2. コアチームの体制（コーディネーター、高校職員、市町村職員等）

高校魅力化コンソーシアムの立ち上げに関わる主なメンバー（コアチーム）

御船町	まちづくり課	課長	西本 和美
		課長補佐兼係長	田島 履穂
		主事	下村 友亮
コーディネーター	一般社団法人Table		井下 友梨花
	SOWER		小仲 貴宏
御船高校	教頭 (主担当)		古閑 愛
	主任事務長		豊永 祐樹
	主幹教諭		佐々木 勇
	校長		橋本 岳範

3. コンソーシアム設立の目的と背景、今後のビジョン

ビジョン案について

将来像、基本方針、具体施策、プロジェクトで構成される。

将来像

わくわくを形に。
出会い、学び、誇りを育む御船。

船高ワクワクおしゃべり会で集約した意見などを基に、主に実働チーム会議で検討。
高校の魅力化・活性化を通して、地域の活性化を図るために作成。

基本方針

①多世代の他者を巻き込み
チームで協働する

②身近なコトの大切さに気づき、
対話や交流を通して
誇りや愛着を醸成する

③独自の視点で
多面的な情報を発信する

④グローバルな視点で新しい
つながりや交流をつくる

⑤より良い生き方・暮らし方
を見つけ出す

4. 高校魅力化コンソーシアムの組織体制

コンソーシアムの体制

【特徴】

熊本で唯一（現状）

高校生が参画するコンソーシアム

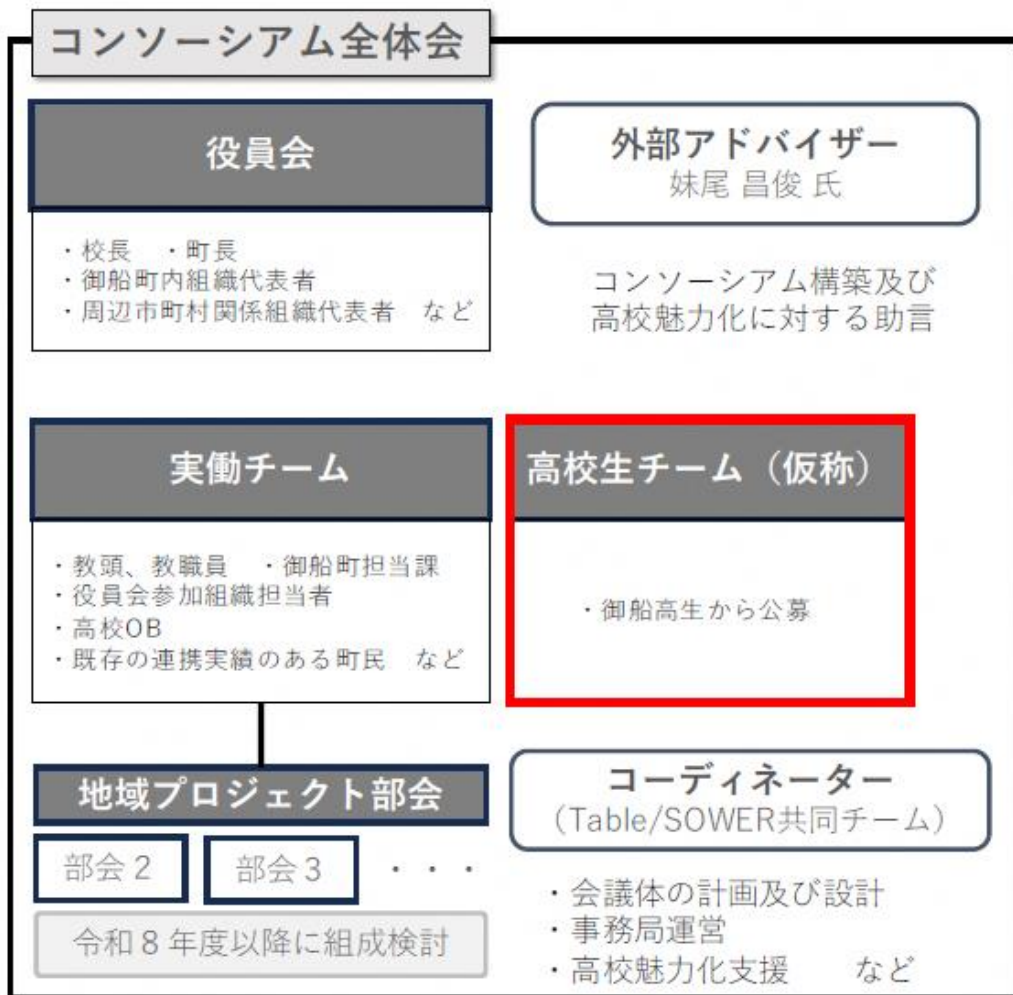
【役割】

- ・ 地域課題の共有
- ・ 地域資源の有効活用
- ・ 地域が求める人材の育成

高校の魅力化・活性化を通して

地域の活性化を図るため

ビジョンを共有して取り組む



5. 取り組んでいることリスト（項目別）

① コアチームの体制づくり

- ・ コアチームメンバーの決定
- ・ コアチーム会議の定期的な実施

③ コンソーシアムによる事業の実施

- ・ 船高ワクワクおしゃべり会の開催
- ・ 御船高校わくわくコンソーシアム全大会の開催

② コンソーシアムの体制づくり （ステークホルダーの発掘・巻き込み等含む）

- ・ 組織体制図の検討、作成
- ・ 委員の選定
- ・ 規約の検討、作成
- ・ 高校生の実行委員を募る

④ リソース（ヒト・モノ・カネ）獲得、その他

- ・ 高校生チームの結成
- ・ 実働チームの結成
- ・ プロジェクト部会候補者への連携提案

(参考) コンソーシアムマネージャーの役割と権限

- ✓ 必要なコーディネート機能は、役割のレベルによって大きく3つに分類され、特にプレーヤークラス及びマネージャークラスのコーディネーターには、カリキュラム開発に係る専門性の高い知識と、地域人材の発掘、育成、教育資源の収集・整理等のために地域内外との継続的な連携が求められる。
- ✓ コーディネーターが非常勤やボランティア等といった配置では、必要なコーディネート機能を継続的に担うことができず、教職員が多くの役割を担う必要がある。



6. コーディネーターの業務とスケジュール

CN氏名：

(1) 主な業務とその割合

地域と関わる教育活動の支援	30%
地域側との連絡・調整	20%
地域資源の掘り起こし	10%
協働体制構築	30%
地域資源発掘	10%

※図5を参考（色も合わせる）に、主な業務を記載し、割合で表現



図5：高校と地域をつなぐコーディネート機能の位置づけ

(2) おおまかな1週間のスケジュール

組織立ち上げや地域連携の必要性が生じた場合に適宜稼働しているため、1週間のスケジュールは不確定
例として2025年度のコンソ立ち上げの動きと日数を示す。

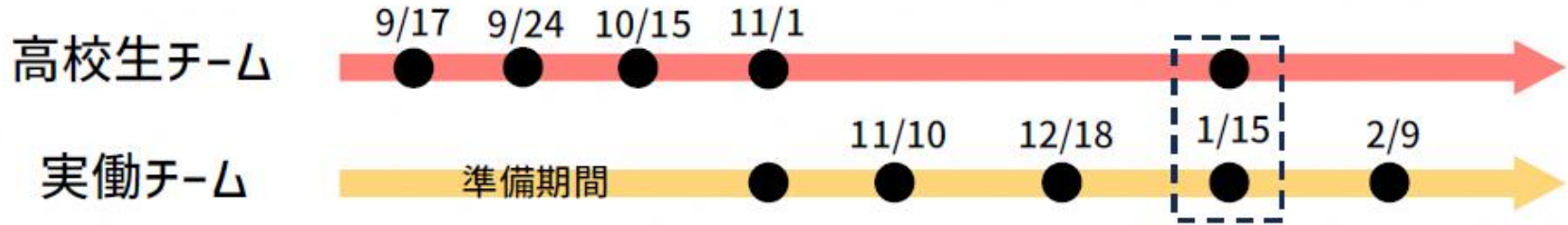
例) 立ち上げに向けた動き
(ビジョン等の検討時)

- ①関係者日程調整（半日）
- ②開催通知発信（半日）
- ③打合せに向けた素案作成（1~3日）
- ④打合せ/議論（半日）
- ⑤素案修正（半日）
- ⑥議事メモ作成（半日）

※各項目の間に、各ステークホルダーが内部で関係者確認などを実施

7. 令和7年度スケジュール（活動報告）

今年度の主な取り組み



高校生チーム会議
高校生が参加したくなる
「あり方検討会とは？」



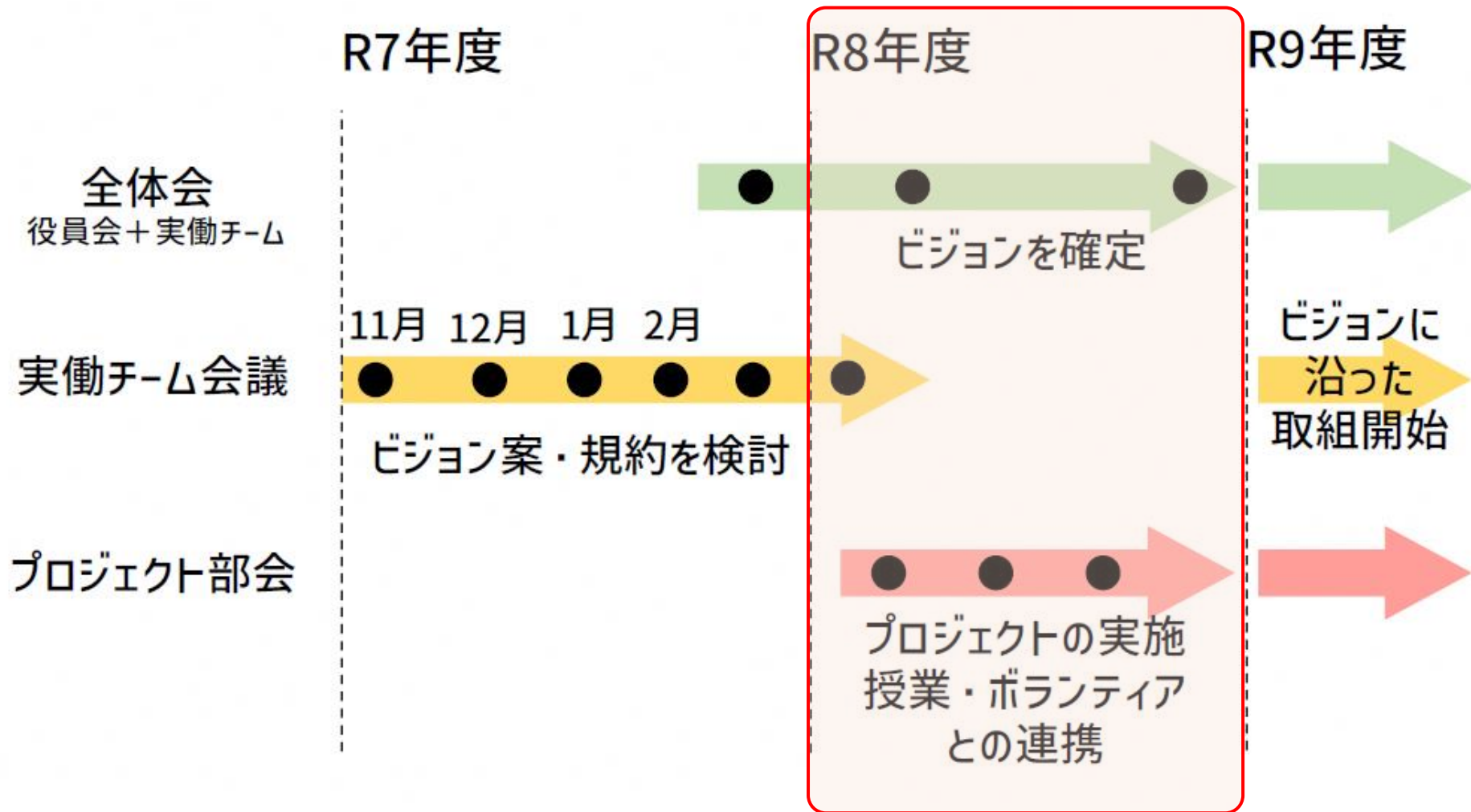
実働チーム会議
コンソーシアムとは？
地域が期待する高校とは？



高校生チーム×実働チーム会議
プロジェクト案の検討



8. 令和8年度スケジュール（活動予定）



9. 今年度のまとめと次年度への展望（項目別）

	①コアチームの体制づくり	②コンソーシアムの体制づくり
A.目標や取り組む中で見えた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係者（町・高校）が希望する連携先が異なっていた ・県立高校という性質上、広範の関係者に参画いただきたかったが、相手方の都合で参画をいただくことができなかった ・ビジョンなど抽象的な議題に対して、参画者の議論が停滞 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係者（町・高校）が希望する連携先が異なっていた ・コアチーム（実働チーム）とその他のメンバーの位置付け ・役割の調整、体制図における表現の合意形成
B.Aに対する具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・人選の方針や考え方を先に確認した上で、具体的な人選を実施 ・町外関係者を中心に、コアチーム（実働チーム）外の関わり方を検討し、具体的なプロジェクト案を重視し参画を促した 	<ul style="list-style-type: none"> ・人選の方針や考え方を先に確認した上で、具体的な人選を実施 ・関係団体の代表者などで構成する組織を「役員会」として位置づけ、議決権を整理した上で各関係者への説明を完了
C.取組により得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係者の希望する連携先からの参画に成功 ・町外関係者について、次年度以降のプロジェクト部会への参画承諾 ・実働チーム会議の議論の具体性・主体性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係者の希望をする連携先からの参画に成功 ・地域内で大きな混乱なく、無事に設立・開催を達成
D.残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの継続、協力およびチームワークの向上 ・プロジェクト案を実装するための議論 ・コンソーシアムが自走した場合の会計処理の所在 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会を含むコンソーシアム会議全体会の開催形態（WS形式）の検討 ・コンソーシアムに関する情報発信
E.今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・コアチーム（実働チーム）の役割を、ビジョン検討から具体的なプロジェクト実装に移行 ・メンバーの主体性を尊重した協力と、継続的な連携体制を構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会をワークショップ（WS）形式で開催することを検討し、参画者の参画を促す ・マスメディア等を活用し、外部に向けたコンソーシアムの活動発信を強化

9. 今年度のまとめと次年度への展望（項目別）

	③コンソーシアムによる事業の実施	④リソース（ヒト・モノ・カネ）獲得、その他
A.目標や取り組む中で見えた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10代が主体的に参画したくなる「あり方検討会」の開催を目標に設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標：コンソーシアムメンバーの確保 ・R9年度以降の運営財源及び体制が不透明な点があり、中長期的な安定性に課題が残る
B.Aに対する具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝礼で主体的な参画者を募集 →企画・運営に生徒3名が参画 →高校生チームとしてコンソに位置付け ・放課後の企画に関する議論（3回） ・ボランティア募集による、参画者生徒を募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・各主体が役割分担を行い、参画依頼を実施 ・各主体の財源の見通しに関する議論、県への質問の投げかけ
C.取組により得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生チームを企画・運営に巻き込んだ、「船高ワクワクおしゃべり会」の開催 →タイトルやプログラム案、ノベルティまで生徒自身のアイデアを反映 ・参画生徒は合計15名程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係者の希望をする連携先からの参画に成功 ・R9以降の運営財源及び体制が不明確であることを前提に、柔軟性を残した暫定的な体制を構築
D.残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降の開催方針の検討 ・高校生チームの人数拡大・認知度向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト実装に向けた、プロジェクト部会メンバーの拡大 ・2027年度以降の運営財源および体制が不透明な点があり、中長期的な安定性に課題が残る
E.今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も同様の形態で「おしゃべり会」を継続し、生徒による自律的な運営を支援 ・生徒チームによる校内向けの情報発信を強化し、認知度と参画人数の拡大を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト実装に向けた、プロジェクト部会メンバーの拡大 ・2027年度以降を見据えた、持続可能なコンソーシアム運営財源の確保に向けた検討を継続

10. 次年度に向けて課題、今後の展望（学校、市町村別）

	学校	市町村
課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人員不足 ・教職員の働き方改革と学校魅力化活動のバランス ・高校生が校外活動する際の安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・R9年度以降、プロジェクトを動かすための予算は確保できると思うが、コーディネーターの委託費は不明確
次年度への目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と生徒が連携して行える活動 ・グローバル教育の推進 ・STEAM教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン策定 ・2件以上のプロジェクト実施 ・御船高校わくわくコンソーシアムの自走準備
具体的に取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターと総合的な探究の時間担当者との連携 ・総合的な探究の時間における地域との連携（コーディネーターとともに活動） ・高校生部会の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の広報媒体上で行う高校生主体の広報活動 ・町主催のイベント内での高校生主体で関われる取組の創出

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例①

タイトル：船高ワクワクおしゃべり会（あり方検討会）



◆背景・取り組みの概要

コンソーシアムのビジョンを策定するにあたり、高校生及び地域のニーズの把握が必要であると考え開催した。

◆参画者/対象者

御船町民及び御船高校に縁のある方

◆CNとしての関わり

御船高校の生徒が運営の一部に関わるにあたり、高校生部会（仮称）の伴走支援を行った。

◆実施の結果・成果

ビジョンの根幹となる、生徒や地域の方々の御船高校に対する期待や要望などのアイデアを集めることができた。

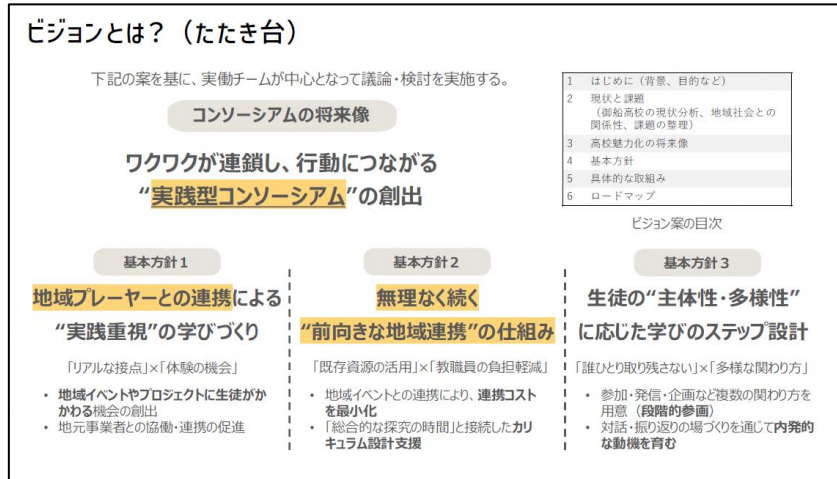
◆得られた知見・ノウハウなど

企画・運営等の準備段階から生徒を巻き込むことで、主体的な参画を得られる。

必要であれば使用

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例②

タイトル：実働チーム会議



◆参画者/対象者

実働チーム

◆CNとしての関わり

議題の整理及びスケジュール調整並びに会議の司会進行。

◆実施の結果・成果

年度内にコンソーシアム規約を策定。

ビジョンのたたきを作成した。

◆背景・取り組みの概要

ビジョン案を策定するにあたり、船高ワクワクおしゃべり会で集まったアイデアを分類し、具体的なプロジェクト案を議論することで、参画者の持つイメージの平準化を図った。

◆得られた知見・ノウハウなど

具体的なプロジェクトや取り組みのアイデアをテーマとすることで、役割が明確になり議論が活性化。それらのアイデアを抽象化し、ビジョンに落とし込む部分は事務局が担当すると良い。

必要であれば使用

コンソーシアム立ち上げに向けた実践事例③

タイトル：御船高校魅力化コンソーシアム設立準備会



◆背景・取り組みの概要

コンソーシアム設立にあたり、コンソーシアム名称や規約を決定し、ビジョン案や今後の取り組み内容を共有した。

◆参画者/対象者

役員、実働チーム、高校生部会

◆CNとしての関わり

会の準備及びスケジュール調整並びに司会進行。

◆実施の結果・成果

コンソーシアム名称の決定及び規約が承認された。

地域の重鎮が集まる会であったが、高校生が臆することなく意見できる場とすることができた。

◆得られた知見・ノウハウなど

高校生を参画者として位置づけ、発言を促すことで、建設的な場となった。学校側の配慮でお菓子の配布などがあり、それもアイスブレイクとして機能していた。

必要であれば使用